

## 第 29 期第 7 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 令和 2 年 8 月 6 日（木）10 時 00 分～11 時 45 分  
仙台市役所上杉分庁舎 12 階 教育局第 1 会議室
- ◎ 出席委員の氏名 遠藤仁委員、小林直之委員  
今野広元委員、新迫宏委員、菅原孝代委員  
杉山秀子委員、根岸一成委員、真壁直人委員  
松本由男委員、渡辺祥子委員、渡邊千恵子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 武者元子、市民図書館副館長 松島桂一  
泉図書館長 高橋三也、宮城野図書館長 柴田聡史  
太白図書館長 田中知代子、広瀬図書館長 菊池雅人  
榴岡図書館長 今野宏、若林図書館長 山口宏  
市民図書館企画運営係長 早坂江美子  
市民図書館奉仕整理係長 山田千恵美

### ◎ 会議の概要

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 会議録署名委員指名

会長より、今野広元委員を指名。

### 4 協議事項

#### （1）令和元年度仙台市図書館事業報告書（案）について

（市民図書館副館長 説明）

資料にもとづき説明

議 長 事業報告書では、「新規」や「重点項目」などの符号を工夫して付けており、重点の置きどころや図書館が何を目指して運営していくのかという方向性が非常に分かりやすくなっている。従来から課題として挙げられていたが、この情報の洪水の中で図書館の情報をどう効果的に伝えていくかという点で、図書館のツイッターには、随時、画像とともに新鮮な情報が掲載されている。目配りされていることで、使いやすい図書館を伝えることができていると思う。

新型コロナウイルス感染症に関しては、予想しない事態でもあり、委員の皆様から、意見として付け加えてはどうかという提案や、今年度または来年度以降の方向性へのご意見も含めて、幅広くご意見を頂戴したい。お気付きの点があれば、どの項目からでも構わないので、発言いただきたい。

新迫宏委員 来年度以降の話になると思うが、新型コロナウイルス感染症の関係について、例えば資料 2 の運営方針で「サービスの提供にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分に配慮する」とあるが、それは当たり前であり、この程度の認識でいいのかと

いう気がする。もっと根本的あるいは抜本的に図書館のあり方を考えていかなければ、今年と同じように、イベントを中止して、一部閉館してということ繰り返すだけである。ウィズコロナの時代に突入するとするならば、今からもっと抜本的な対策を考えていかなければならないと思うし、今のうちから議論をしていったほうが、もし来年、再来年と続いたときに対応が可能となるのではないか。

議 長 例えば、電子書籍などの非接触型サービスの拡充を具体的にどう展開していくかという  
ことを、少し事例として示した方がいいということか。

新迫宏委員 インターネットであるとか、移動図書館の拡充や、図書の宅配なども考えられるが、  
少し具体的に考えていかないと、結局また今年と同じように一部休館するという対策で  
終わってしまうのではないかと危惧している。

小林直之委員 事業報告を伺いながら、今のこのコロナとともに生きていく中では、なかなかできに  
くい、前年だからできたことを一つ一つチェックしていたが、増えていく一方で、これ  
は非常に難しい問題だと思った。

参加者が多ければ、関心を集めて良かったと評価されるだろうが、今や人が集まる  
な、人と会うな、外に出かけるな、という社会になりつつあり、本当に難しい。

新しい試みとして例を挙げるならば、やはり電子図書館のような形で、電子書籍を購  
入し、端末から家で図書館の本が読めるような形も考えられる。しかし、すぐ来年度の  
事業でできるかといえば、簡単ではないかもしれない。

唯一今考えられるとしたら、例えばオンラインセミナーのような形かもしれない。家  
にしながら図書館がこれまで発信してきた情報を得られる、例えば読み聞かせや、子  
ども向けの本のリストなど、図書館に来なければ得られなかった情報をオンライン上で提  
供していくというようなことは、急務になるのではないか。

既に博物館や美術館では、学芸員トークという形で、来られない人に対して自分の館  
の魅力を伝えることは行っているのだから、図書館で可能か検討が必要だが、オンライン  
で発信していく形は必要になってくるのではないか。そこで、蔵書をどう活かしていく  
か、レファレンスをどう活かしていくかという点が知恵の絞りどころという気がする。

議 長 私自身もユーチューブのような動画掲載サイトに、例えば名人が絵本の読み聞かせを  
している動画を掲載して、都合のいい時間に子どもと一緒に見られる取り組みはどうか  
と考えたこともあるが、やはり肖像権の問題や本の著作権の問題等で簡単にはいかない  
ものなのだろうか。オンラインでのサービスのあり方を、これから切り開いていく必要  
があるかもしれない。感染症の問題が終息するまで、年単位でかかる可能性もあり、継  
続して検討していかなければならないと思うが、そのあたりも含めていかがか。

杉山秀子委員 私は保育現場にいるが、今回のコロナ禍で、最も大変で動きが取れないのは、小さい  
お子さんや保護者、高齢の方だと思う。そういった方々が頼るのが、デジタルより紙媒  
体だと思うので、図書館に行けないならオンラインでというのも難しい。また、私の立  
場であれば、小さいお子さんを抱えたお母さん方に対しては、メディアにばかり走っ  
てしまうのは子どもにとって良くないと、伝えなければならない立場である。このよ  
うなメディアに頼らざるを得ない状況下では、図書館のあり方がとても重要になってくると

思っている。

首都圏の子ども専門の図書館でも、読み聞かせやストーリーテリングなどをオンラインで行っている。その是非はあるだろうが、これから図書館でどういうことをやっているのか、具体的に考えていくことが急務になってくると思う。

議 長 今、生徒にタブレットを1人1台という時代になってきていることは、チャンスだと思うので、早めに対策を考えていくとよいのではないか。

今野広元委員 所属する仙台市PTA協議会で、毎年11月にPTAフェスティバルを開催している。市民広場を会場に3万人ぐらいの来場者があるイベントだが、今年は新型コロナウイルス感染症により開催できないため、今だからできることは何か、知恵を絞って検討した。イベントでは、各ブースで仙台市立小・中学校の紹介やPTAの紹介、社会学級の紹介などを行っていたが、それを仙台市PTA協議会のホームページ上に一つ一つコンテンツとして掲載したり、大学の先生の15分ぐらいの講座などを掲載したり、移動図書館はじめ他の団体のHPのバナーを貼りつけるということを考えている。

メディアが良い、悪いというよりは、今は情報発信のためにどうしたらよいのかを考えなければいけない。ウェブ環境がない家庭もあるのだが、子どもたちにタブレット端末が配付されるということであれば、保護者からまず学ぶ必要がある。

また、移動図書館については、移動図書館が今いる地点を即座に発信するような取り組みも考えてみてはどうか。

菅原孝代委員 事業報告書の内容を説明いただき、さまざまな事業を展開されており、私自身が知らないこともたくさんあった。

具体的などころでは、まずネットワークを広げていく取り組みを数多くされているということがよく分かった。図書館職員への研修などを通して、子どもたちの支援に当たる人を支援していく取り組みが、とても良い。

勤務する大沢小学校の近くでは、宮城総合支所に絵本棚を設置していることが分かり、宮城総合支所には小さいお子さんを連れのお母さん方もよく訪れているので、そこに絵本があることに、とても助けられた保護者の方もいると思う。

図書館は、人を育てていく事業に力を入れており、職業体験などの受け入れもずっと継続してくれている。職業体験は「働く」ということを非常にイメージしやすく効果的な方法だが、受け入れる側は、業務も増えるのでとても大変だ。それでも何年も続けていてくれることが、学校現場で働く一人として、ありがたく思う。

これだけ多くの取り組みをされていることを、皆に伝えていくのが難しい。ホームページなら訪ねてくる人には伝わるが、この訪ねるきっかけになるような方法は何があるだろうか。具体的には、ツイッターのフォロワー数が伸びていくような取り組みを、現場でも考えていければいいのではと思っている。

読み聞かせについてだが、オンラインでやるということは、なかなか難しいと思った。読み聞かせの良さは、読む人がそこにいるという温かさもあり、オンラインで全て替えられるかどうかというところ、果たして需要があるかどうかというところも含めて検討するとよいのではないか。私が、読み聞かせをされている方から以前聞いた「自分

で読んでも1冊、読んでもらっても1冊」という言葉がある。読んでいただいても1冊の読書になる、または読書の入り口に立つことができるということで、読み聞かせの効果は非常に高いと思っている。

具体的な提案ができるほどの情報もまだないが、このコロナ禍で急な対応を迫られて本当に大変だったろうと思っている。教育現場も同じだが、たくさんの市民をお客様にしている図書館では、次々と変わっていく情報にその都度対応していくということの繰り返しだったと思う。今後どうするとよいか、具体的に皆さんのお知恵をお借りして考えていければいいと思う。

議 長 未来の読書人を育てるという意味では、非常に学校との連携が大事だが、簡単なようで、うまくいっていないという部分もあると感じている。委員の皆様から何かご提案などがあるか。

真壁直人委員 今はコロナの状況の中で、大幅な発想の転換を図る必要があると思う。中学校では、ホームページと一斉配信メールを活用した。ホームページを大幅に更新し、各教科のページの作成や、各課題の掲載を行いながら、何とか2カ月間子どもたちの学習に隙間ができてしまわないように、独自に工夫してきた。

本校の図書館はとても充実しているが、泉図書館から遠い地域にある。例えば学校のホームページに図書館のバナーを貼り付ける、本の紹介だけでなく、学校図書館に貸し出してくれる本を増やす、リクエストを取る、ほかにも図書館ツイッターだけでなく、フェイスブックやLINEなどあらゆる手段を使って発信を行えば、子どもたちにも教師にも本について双方向的な情報のやりとりができるのではないかと。

来年に向けて、例えばまた学校が臨時休校になったり、第2波、第3波が来ても、家にいる間に図書に親しめる状況がつかれるようなアイデアはたくさんあると思う。中学校区には小学校が複数あり活用しやすいので、ぜひ頼っていただきたい。

タブレット端末の活用も、待ったなしで進めていけば、新型コロナウイルス感染症が終息した後も間違いなく役に立つと思う。

議 長 タブレット端末の普及を見据えて、ホームページに課題を掲載するようなことは、各中学校でなされているのか。

真壁直人委員 行われている。

議 長 学校のホームページからもアイデアが得られるかもしれないので、我々も情報を集めておく必要があるだろう。

渡邊千恵子委員 さまざまな世代に訴求する取り組みをされていて、非常に評価できると思う。中でも、11ページの「高齢者のサービスの充実」のところでも少しお願いがある。

人生100年時代と言われて、高齢期も、そしてこれからは社会が変わってくるにつれて、今までの高齢期像やシニア像ではない新しいシニア像といったものが出てくるかと思う。そういった中で例えば、既にされているかもしれないが、高齢者はこういうことに関心があるからこういう展示をしようというだけではなくて、これからのシニア像に求められるような内容のものを考えてほしい。例えば仙台市は、支え合いの社会をつくりたいと計画等で打ち出していると思うが、ボランティア論や各地の支え合

いの事例など、高齢者のこれからのニーズをつくっていくような展示や本の収集をしていただければ、図書館が引っぱっていく役割を果たすことができるのではないかと。

大きい活字の本の話も出ていたが、オーディオブックのような音声で聞く本もそろそろ射程に入ってくるのではないかと。今そういった本の貸し出しはあるか。

事務局 サピエ図書館という視覚障害のある方も利用できる資料があり、電子媒体について登録制で貸し出すことはしている。また、やはり電子図書には音声で再生できるものも多々あるので、ご自身で利用されている方はいると思う。図書館としては、一般書として取り扱うまでに至っていないが、図書館ホームページに青空文庫（インターネット上の電子図書館）等のリンクを貼らせていただいているような状況である。

渡邊千恵子委員 少し先のことを見据えて、高齢者のサービスについても検討いただければと思った。さまざまな世代にわたる取り組みをされているが、利用状況を年齢別などの形で見せることは難しいのか。

事務局 年齢別の利用状況は、過去に図書館協議会でも話題になり、一度お示ししたことがある。お時間をいただければお示しできる。

松本由男委員 12ページの「外国人が使いやすいサービスの充実」だが、外国人向けの図書はどの程度ニーズがあるのか。また外国人からのニーズは、どのような手段で取られているのか。

事務局 外国語の資料数は4,698点（平成30年度）となっている。

松本由男委員 完璧過ぎるくらいさまざまな事業をやられていると思って聞いていたが、「誰もが使いやすい図書館サービス」と言ったときに、外国人に対してどのように取り組んでいるのか気になった。私が例えば外国に行った時のことを考えると、図書館に行った際に日本の本があれば、安心感があると思う。仙台市に、1万数千人の外国人がお住いと考えると、より丁寧にきめ細やかに取り組まれるとよいと思う。

渡辺祥子委員 本当に細やかな施策や取り組みをされていることが、この事業報告書で大変立体的に見えていると評価させていただきたい。

その中で、「出会いの場の提供」ということが多く出てくるが、その出会いを単なるきっかけで終わらせない、出会いを出会いとして成就させるような仕組みをきちんとついている。例えば、ヤングアダルト世代ではボランティアを組織し、子どもたちのところに派遣する取り組みを行うなど、継続して連携できるような仕組みづくりもしっかり行っている点もアピールするとよいと思う。

コロナ禍の話があったが、1ページの「資料を介在とした地域社会の中での落ち着いた居場所としての機能と新たな活力を生み出す場づくり」とあり、この場というのも出会いと交流の場だと思うが、今、この「居場所」に集まれなくなる中でどうすればよいだろうか。私自身は、本自体が落ち着いた居場所だと思っており、本そのものが居場所という観点から、この居場所をいかに届けていくか、そしてそれは落ち着いた場にも、出会いの場にも、交流の場にもなり得ると、本そのものを媒介として大事にして、どう発信していくか、どう手渡していくかということに取り組んでいけば、きっと図書館で目指しているものが、コロナ禍でも実現できるのではないかと。

私自身も全く人前に出られない状況が続いており、映像の発信等さまざま取り組んでいる。イベントが中止になったため、ダイジェスト版を配信したところ、思いもかけず、障害のある方や、足腰が不自由でイベント会場に足を運べなかった方々から、「今までずっと行けなかったが初めて聞いた、見られた」と、大変喜んでいただいた。苦肉の策でやるのが、今まで見落としていた方々に広がる可能性があるのだと、逆に使命感を持っている。図書館としての取り組みを苦勞しながらやる中で、本来の使命感が取り戻せるのではないかと感じている。

議 長 確かに、循環するように、人の育成にも関わっている点は良い。手段や方法にばかり目が行くが、原点である本の世界に戻るといふ意見は非常に新鮮に感じた。

根岸一成委員 説明を伺い、仙台市図書館が多岐にわたり取り組み、改善されているのが伝わってきて、感心しているところだ。宮城県図書館でも、やはりこのコロナの状況の中で、さまざまなサービスを一時期は停止せざるを得ず、現在も試行錯誤している状況である。

図書館は本来的には来館し、対面をして、そこで資料と出会い、人と出会う場であるべきと思うが、今それに応えられない部分がある。オンラインの問題、電子化の問題もあるが、環境をお持ちでない方も一定数おり、そういった方々に対しては、これまでどおり直接的な来館によるサービスを維持していかなければ、手が届かない部分も出てくる。今後は両面で模索していかなければならないと思っている。

ご指摘のあった、地域の中での居場所としての問題も大きい。現在、長く居ないでくださいと言わざるを得ない状況の中で、どのようなあり方が安心して適切なサービスの提供になるのかというのは大きな課題と思っている。

宮城県図書館で、感染対策を徹底する条件のもとで夏休みのイベントを実施したところ、あっという間に定員が埋まった。機会があれば参加したい方はたくさんおり、来る方も迎える側もお互いに安心できる環境というのはどのような条件を整えばよいのか、合意形成や信頼関係が築ければよいと感じている。

議 長 昨年度の事業報告に対してだけでなく、先のことも含めて委員の皆様からいろいろ意見を頂戴した。

事業報告書の取りまとめについては、事務局と私とにお任せいただき、次回の図書館協議会までに公表させていただくことでよろしいか。

各 委 員 了解。

議 長 それでは報告事項に移る。事務局から説明願いたい。

## 5 報告事項

### (1) 令和2年度仙台市図書館運営方針・事業計画の修正について

(市民図書館副館長 報告)

資料にもとづき報告

議 長 ただいまの報告に関して、委員の皆様から質問や意見はあるか。

各 委 員 特になし。

(2) 令和元年度の仙台市図書館利用状況等について～令和2年度仙台市図書館要覧より～

(市民図書館副館長 報告)

資料にもとづき報告

- 議 長 ただいまの報告に関して、委員の皆様から質問や意見はあるか。  
なお、今年度の上半期の状況については、どう捉えているか。大きく落ち込んだなど、  
感覚的なものでもよい。
- 事 務 局 上半期については、休館した期間もあり、微減していると感じている。しかし、利用  
者統計を見ると、9割程度で推移しており、外出を抑制している方もいる一方で、この  
状況下でも来てくれているとの見方もある。感覚としては滞在時間を短くしての利用に  
協力いただきながら、多くの方に利用いただいていると思っている。やはり、予約制度  
などを活用して効率的に図書館を利用いただいていると思う。
- 議 長 宮城教育大学附属図書館でも、一時は入館者の人数制限をし、入館証を受付で預かる  
とともに、入館者の所在を把握する等の制限を行っていた。  
報告2についてはこれでよろしいか。
- 各 委 員 了解。

(3) 小学1年生向け利用者カード引換券配付事業について

(市民図書館副館長 報告)

資料にもとづき報告

- 議 長 ただいまの報告に関して、皆様から質問や意見はあるか。
- 各 委 員 特になし。

(4) 仙台市図書館に関するアンケート調査の実施について

(市民図書館副館長 報告)

資料にもとづき報告

- 議 長 ただいまの報告に関して、皆様から質問や意見はあるか。
- 松本由男委員 設問の項目について伺いたい。これは、過去のアンケート調査と同じ項目なのか、あ  
るいは一部は今回新たに現在の特徴を捉えた設問にしたのか、統計を取るうえで過去の  
調査との関係をどうしたのか、確認したい。
- 事 務 局 平成27年度にも、図書館振興計画の策定に備えて市政モニターアンケートを実施し  
た。例えば、図書館の利用状況について尋ねる基本的な設問等は共通だが、電子書籍に  
ついての設問などは新しいものであり、全体としては、前回調査からの変化を見る設問  
より、今回新しく設定した設問が多くなっている。

松本由男委員 対象者は、ありとあらゆる層を対象にしているか。外国人の方はどうか。  
事務局 市政モニターの年齢構成はさまざまで、性別では女性がやや多くなっている。今年度  
市政モニターに応募し登録されている方が対象ということになる。

8月中旬から仙台市図書館全館で実施する利用者アンケートでは、できるだけ幅広い  
方々をお願いしたいと思っている。ホームページからも回答できるので、お近くの方  
にご案内いただければありがたい。

議長 報告4については、これでよろしいか。  
各委員 了解。

#### (5) 新型コロナウイルス感染症に対する市図書館の対応について

(市民図書館副館長 報告)

資料にもとづき報告

議長 ただいまの報告に関して、皆様から質問や意見はあるか。  
各委員 特になし。

### 6 その他

#### (1) 泉図書館開館30周年記念イベントの実施について

(泉図書館長 説明)

資料にもとづき説明

議長 ただいまの説明に関して、皆様から質問や意見はあるか。  
各委員 特になし。

#### (2) その他

(市民図書館長 説明)

配付チラシについて説明

議長 次回の協議会の日程について事務局から提案願う。  
事務局 事務局から次回の協議会の日程について連絡。  
議長 以上で議事を終了する。

### 7 閉会